

柳川郷土研究会  
会誌「水郷」付録

すいきょう

# 瓦版

発行所 柳川郷土研究会  
柳川市本城町113-1  
発行人 武松 豊



柳川城復元図 (立花三楽氏・画)

柳川藩、家老の血筋をもたれる三楽氏は今もお頑なまでにその地に居を構えられている。きっと幻の天守に思いを馳せながら、現在の柳川高校の南門付近にあったであろう欄干橋を渡り、二の丸御門から入城する藩士達を熱いおもいで描かれたに違いない。

## き 土竜(もぐら)の

小泉さんが総理になって有名になったのが「米百俵」でしょう。

この言葉は戦時中にも盛んに聞かれました。越後(新潟県)、長岡出身の山本五十六連合艦隊司令長官とその人格形成の母体となった長岡教育の素晴らしさを称えて宣伝されたものです。

その長岡で忘れられない人物が家老の河井継之助。彼は三十三才の時、備中(岡山県)高梁に赴き、山田方谷に師事しました。方谷は陽明学者、松山藩の藩政改革を成功させた人物です。

その薫陶を享けた彼は長岡藩の藩政改革に着手しますが、財政改革によって過去の借財を清算した上に十両兩程の蓄財が可能になったのです。兵制改革としては旧来の槍・剣を廃止して新式鉄砲(ミニエール銃)を購入して、全藩士に洋式訓練を行いました。

彼は武装中立の立場をとりますが、岩村精一郎の無礼な態度に怒って、遂に薩長軍と鏖を交えることとなります。一青年の言動によって惜しい人物を失い、藩民に多大の犠牲を出すこととなったのです。

山縣有朋も岩村の挑発を悔やんだそうですが、礼儀を忘れた人間は困ったものですね。礼儀の復権、それはいま大切な命題です。

(土竜)